

20231007 第159回『運輸の日』

昨夜から台風のような風と大粒の雨。行動開始時間の直前まで荒れ模様でしたが、風は若干あるものの、蒸し暑い中2日目の行動が行われました。今回は、横浜地区連絡協議会で構成された最強メンバー5人！東神トラックステーションにて、昨日に引き続き大型車の速度規制についてドライバーの方々の意見や仕事上での悩みごとなどの聞き取りと、運輸労連のリーフ、アンケート調査のお願いを配布しました。



ドライバーさんの賛成意見

○小さい会社だから、結構厳しい時間で走っている。少して時間に余裕があれば気持ちも楽になる。
○たまに遅いトラックがいて80キロで走行してても追いついてしまい。追い抜くのに時間がかかり、後ろの車が気になる。最高100キロとしてくれれば、スムーズに抜ける。

ドライバーさんの反対意見

○80キロでの運行に慣れているので、今さら100キロでと言われても困るよね。現状、かなり運行には余裕があるのでこのままでいいかな。怖いかもしれない。
○荷主が喜ぶだけなんじゃない。燃料食っても荷主には関係ない。
様々なお意見ありがとうございます。



行動者の感想

お疲れ様です。今回の統一行動では高速での大型トラックの制限速度についてのテーマでしたが、リミッターがきいてるから、あまり変わらないのではという意見と、逆に早く荷主さんの近くに到着して、早く休息が取れるので良かったと言う方も、多くの意見としてありました。また、企業の大きさに制限速度への管理の違いがあるのも実際のところで、まずはその辺のところもどうなんだろうと思いました。ただ、どのドライバーさんも1番の心配点は安全面がどうなるのかと、誰もがコメントしていました。これはハンドル握るドライバーとしての責任感の強さを非常に感じました。その他以外では大きな問題点はトラックステーションが全国的に少ないこと、特に首都圏に全くと言っていいほど、ない事が大きな問題であると話を聞いている中で思いました。やはり、ここを改善する事が私達運送業界の安産第一と職場環境の改善につながると思いました。

高橋 徹(ヤマト運輸労働組合横浜支部)

組織拡大統一行動の横浜地区連担当日、5名でアンケートと聞き取り調査を行った。

聞き取り調査は、大型トラック高速道路制限速度を 80km/h から 100km/h への引き上げについての賛否を聞きました。

やはり、安全面で危惧するドライバーが半数ほどいたが、他に高速道路PAに止められない為、先を急いだり、休憩が満足に取れないなどの問題もあり、トラックドライバーを取り巻く環境の厳しさを感じた。

地道にひとつひとつ改善していけるよう組合として取り組んでいく必要があると思いました。

中野一徳(全日通労働組合神奈川支部)

11月とは思えないような蒸し暑さでしたが、熱中症に気を付けながら活動しました。

今回は高速道路における速度が 80 km⇒100 kmに引き上げる事について賛否を問いましたが、多くは賛成でした。

理由としては、「100 kmに引き上げた事により休息期間が多くなりゆとりが出来る」との事でした。

一方で反対の理由としては、車両の構造的にリミッターが掛かっている事や 100 kmで走行した際、回転数がレッドゾーン近くになり、エンジンの故障してしまうのではとの意見もありました。

同じ働く仲間が安心して働ける職場環境になる様、様々な課題や現場実態を把握し、地道に活動を続けて行く事が大切だと思いました。

郷家英樹(全日通労働組合神奈川支部)

開始直前に雨はあがったものの、11月とは思えぬ暑さのなか、東神 T.Sにて統一行動を行いました。

大型トラックの高速 80km 規制の緩和措置案に対してのアンケートに伝えていただきました。

ドライバーさんは口を揃えて事故が増える、大事故が起きるから反対！そもそも事故が原因で規制が掛けられたのにおかしいでしょう！などの意見が9割以上を占めていました。私自身全くの同感です。

本日もたくさんのドライバーさんに協力をいただき無事に終えることが出来ました。

阪本志津喜(日新労働組合)

県連組織拡大統一行動として11月7日に東神トラックステーションにてアンケート活動を行いました。
今回のアンケートは高速道路の最高速度が80kmから100kmへ規制緩和されることについて賛成か反対かを伺いました。

意見としては賛成が多く、プラス10kmの影響値は大きいとの回答が多数でした。

その中でも安全面の不安も多数あり、重大事故へのリスクや走行する上でのマナーへの問題提起がありました。他に80kmで十分という意見も複数あり、速度規制緩和されようとも安全面や体力的な事を考えるとそれ以上は出さないなど安全意識を中心に考えるドライバーさんもいました。

規制緩和以外の意見としてトラックの休憩スペースがあまりにも少なく、法的な休憩を取るにも厳しい現状があると訴える話がありました。

2024年問題も控えた運輸業界の問題は届ける在り方だけでなく届ける側の環境改善も含めた諸問題を解決していく必要があると感じた活動でした。

佐藤井左夫(ヤマト運輸労働組合横浜支部)